

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	柳田 綾香（やなぎだ あやか）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	早稲田大学大学院 人間科学研究科博士後期課程 3 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 51 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	柳田 綾香, 富田 望, 七森 真央, 熊野 宏昭
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	高社交不安者における認知的準備の有無が オンラインスピーチ中の注意の向け方と自己評価に及ぼす影響
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）	
近年使用頻度が増加したビデオ通話という環境は、社交不安症の維持要因である自己注目を増大させる可能性が指摘されている。柳田他（2024）の研究では、ビデオ通話中の自己映像が自己評価を高める可能性が示唆されたが、その際に用いた「認知的準備」（社交場面前後で自身のパフォーマンスを評価し、その差を認識すること。また、映像内に映る社交場面の自分と他者を客観的に見ること）が作用した可能性は十分に検討されていなかった。そこで本研究は、高社交不安者を対象に、認知的準備の有無がオンラインスピーチ中の注意の向け方や自己評価に与える影響を検討した。 実験では、高社交不安の大学生・大学院生 64 名を、認知的準備の教示（①スピーチの出来を事前に評価させる「事前評価」、②客観的に自分を見るよう促す「客観的視点」）の有無によって 4 群に割り付け、ビデオ通話を用いて 3 分間のスピーチ課題を行った。スピーチ中の心的視点（O 視点, F 視点, DM 視点; 富田他, 2018）や注意の向け方（FAS; 山田他, 2002）、自己評価（SPQ; 城月他, 2010）を測定し、一般化線型モデルを用いた 2 要因共分散分析を行い検討した。その結果、「事前評価」のみの教示は、他者の目を通して自身を見る視点（O 視点）の得点を高めた。一方、「客観的視点」の教示は、外部に注意を向ける視点（F 視点）や、その場全体を冷静に観察する視点（DM 視点）、他者への注意（FAS-Other）を有意に高め、スピーチに対する自己評価を肯定的にする結果（SPQ 得点の低下）が見られた。なお、2 つの教示を同時に行うことによる相乗効果（交互作用）は確認されなかった。 以上の結果から、単にパフォーマンスを事前に想起させるだけでは、かえって自己注目を強めてしまう可能性があることが明らかとなった。また、「他人を見るように客観的に自分を見る」という教示を事前に行うことで、自己注目に陥らず、状況を俯瞰的に捉えて自己評価を高める上で有効であることが示唆された。発表では、単一的であった聞き手からの言語的・非言語的フィードバックの必要性や、事前評価を行う群に対する操作チェックの妥当性について議論され、今後の研究の展望が精緻化された。	

※無断転載禁止